

視点

つぎはぎだらけの 社会保障予算

令和7年度予算の社会保障関係費は、前年度の37・7兆円から+5600億円の38・3兆円になった。財務省の説明では、社会保障関係費の伸びを高齢化による増加分に収めたということだが、かならずしも褒められたものではない。削減は、薬価改定▲600億円、高額療養費の見直し▲200億円、後期高齢者の患者負担増▲100億円、被用者保険の適用拡大▲100億円などが並んでいる。医薬品については、ドラッグラグ・ロスが多くなり、安定供給ができなくなっているのに、さらに薬価の

引下げでは問題が大きくなるばかりだ。また、高額療養費や高齢者の患者負担もかなり無理していると感じた。そして肝心の医療・介護・福祉関係者の賃金引上げは、昨年の補正予算で形ばかりの措置がされただけで、本予算では、まったく相手にされていない。一方、少子化対策については、児童手当や児童扶養手当の拡充や保育所の給付改善などが措置されている。

今の社会保障予算のおかしな点は、物価・賃金が上がっているのに、相変わらず高齢化による増加分に収めるとしていることだ。これでは医療・介護・福祉関係者の賃上げは必要ない、ガスや電気代が上がっても病院や施設は我慢しろといっているに等しい。

また、少子化予算が社会保障予算と同じ枠に入っているの、少子化予算を増やすためには、ほかの社会保障予算を削らなければならなくなっている。「異次元の少子化対策」というのであれば、その予算は社会保障予算とは別枠にすべきだろう。

最早、社会保障予算はつぎはぎだらけと言わざるを得ない。

社会保険旬報

目次

No.2952 2025年1月21日

視点

つぎはぎだらけの社会保障予算 3

座標

2040年の介護サービス提供へ検討開始
物価・賃金に対応する改定の仕組みを 4
施設従事者の高齢者虐待は過去最高
年金機構の大竹会長が年始の挨拶 5

レコーダ

医療経済フォーラム・ジャパン
第119回定例研修会
令和6年度診療・介護報酬改定を
踏まえた医療・介護連携と今後の
医療・介護提供体制へ向けて
江澤和彦 6

動向

厚労省予算は過去最大
34兆2904億円に
社会保障費は圧縮
—令和7年度政府予算案を閣議決定 22

論評

2024年財政検証と年金制度改革
—年金部会の「議論の整理」を検証する
田中秀明 28

全世代型社会保障への道筋^⑮

政策選択を制約する税制改革の遅れ
山崎泰彦 21

随想—視診・聴診

誰も偉くはない
高山哲夫 27

潮流

中間年改定に製薬業界から遺憾の声 37
日本慢性期医療学会が横浜市で開催 38

第61回診療報酬請求事務能力認定試験

医科・学科試験問題の解答と解説 47

経済スコープ 49

編集室・ワードカプセル 50